

第39号

平成22年3月



大山崎国立公園 日御碕・出雲松島(出雲市)

Nature of Shimane

# しまねの自然

C O N T E N T S	【特集1】エコツーリズムの取り組み…………… 2
	【特集2】希少野性動植物保護条例制定…………… 3
	【選定地域】澄水川ホタル生息地…………… 3
	【自然観察会】乙立ふるさと勉強会他…………… 4～5
	【動植物保護】キレンゲショウマ保全活動…………… 4～5
	【表彰】自然保護関係表彰受賞者の紹介…………… 6
	【指導員報告】自然への感性に魅せられて…………… 6
	【三瓶自然館】サヒメル春の企画展…………… 7
	【事業紹介】木質ペレット焚空調システム導入…………… 7
	【事業紹介】中国自然歩道の路線見直し…………… 8
自然公園の施設整備…………… 8	
ボランティア整備事業…………… 8	

発行／島根県自然公園協会

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地 島根県自然環境課 ☎0852-22-6172 ☎0852-26-2142

## 環境に配慮した感動の旅「エコツーリズム」の取り組みについて

島根県では、多くの人に地域の自然観光資源などに触れてもらい、自然保護の意識を育てるなど自然環境に配慮した旅行、いわゆる「エコツーリズム」の推進を平成20年度から取り組んでいます。

### 温もりを感じる旅

私たちの身近にある自然・歴史・文化・慣習といったものが、意外にも来訪者に大きな感動を与えることがあります。そこには、多くの場合、古くからの伝承や地域に住む人達との深い関わりがあります。そこから伝わってくる温もりがこの旅の魅力と言えるでしょう。

### 来訪者から学ぶ「郷土の宝」

来訪者を受け入れる地元の側にも得るものがあります。普段何気なく接しているものが、実は、人に感動を与える観光素材であることを来訪者から学ぶのです。そして、将来に伝承すべき「郷土の宝」として、大切に守る気持ちが育まれるのではないのでしょうか。

### 平成21年度の取り組み

平成21年度は、広島県の市民グループの方達との連携によりモデルツアーを実施しました。ツアーの案内は、地元の方にご協力いただき、古くからの伝承や人との関わりについて面白く分かりやすいお話しをしていただきました。以下はモデルツアーの一例です。

#### ①三瓶コース(所要時間5時間)

集合・出発(三瓶自然館サヒメル)→三瓶小豆原埋没林公園(国指定天然記念物)→大田市「波根西の硅化木」(国指定天然記念物)→大田市「掛戸松島」(大田市指定名勝)→昼食(三瓶そば)→浄善寺大イチョウ→三瓶自然館サヒメル見学→三瓶山自然林(国指定天然記念物)



波根西の硅化木



掛戸松島



浄善寺の大イチョウ

#### ②奥出雲コース(所要時間5時間)

集合・出発(奥出雲道の駅おろちろ)→亀嵩湯野神社大ケヤキ(町天然記念物)→昼食→馬木金言寺大イチョウ(町天然記念物)→大峠「龍神杉」



湯野神社の大ケヤキ



金言寺の大イチョウ



巨木を訪ねる会のみなさん



龍神杉

※協力:巨木を訪ねる会(代表 加納千里子)

※金言寺の大イチョウは、この旅が契機となり、H22.3.21金言寺の大銀杏を守る会・巨木を訪ねる会・奥出雲町・島根県の4者連携で樹勢回復作業を実施しました。

## トピック：隠岐地域における世界ジオパーク登録に向けた活動

隠岐地域は、エコツーリズムの取り組みを積極的に行っており、平成20年からユネスコが支援を行う世界ジオパーク登録を目指した活動を行っています。平成21年10月には日本ジオパークに認定されました。今後、世界ジオパークへの登録が期待されます。



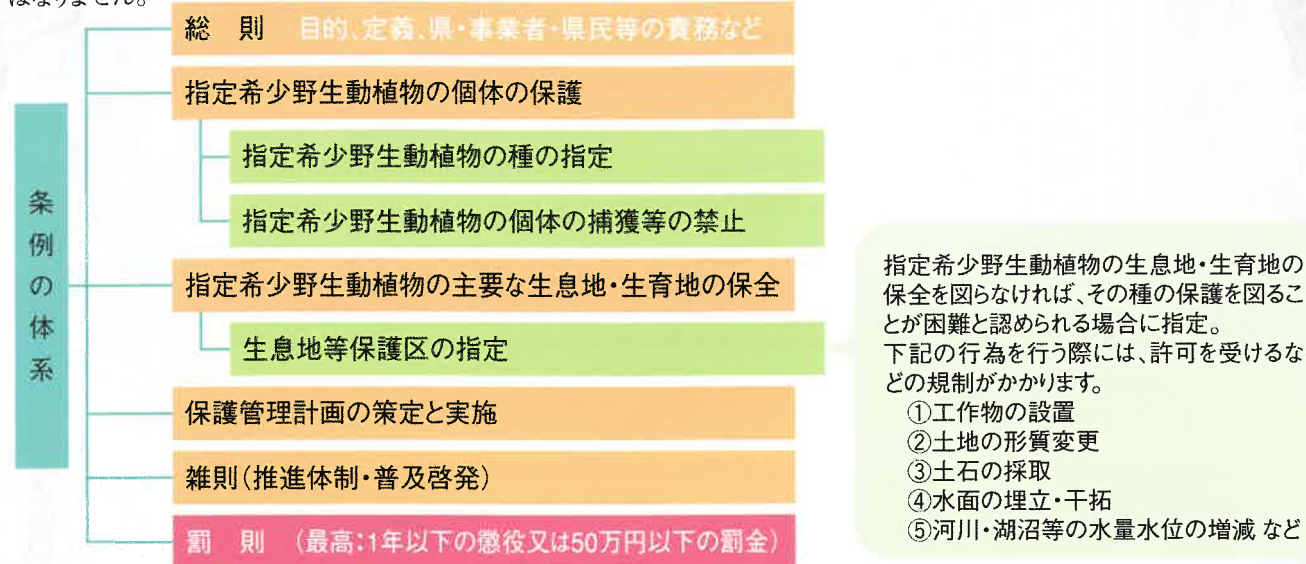
## 島根県希少野生動植物の保護に関する条例の制定

島根県では、昭和62年度から地元の方々が主体的に野生動植物などの自然保護活動をされている地域を、「みんなで守る郷土の自然地域」として選定し、地域と連携した保護活動の取り組みを進めてきました。

しかし、近年、希少野生動植物の悪質な盗掘やインターネット上のオークションへの出品などが多発してきたことに加え、他の都道府県においても希少野生動植物を保護するための独自条例を制定する動きが目立ってきました。

このため、島根県でも、平成22年3月に「希少野生動植物の保護に関する条例」を制定しました。この条例は、県、県民等、民間団体及び事業者と協働して希少野生動植物の保護を図ることで、生物多様性を確保し、県民共有の財産である健全な自然環境を次代に継承することを目的としています。具体的には、希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要がある種を指定した上で、その種の捕獲・採取等を禁止し、また地域の方々と連携してその生息地・生育地の保全を図っていくものです。

捕獲等が禁止となる種は、今後指定することにしてはいますが、この条例の目的が達成できるように適切に運用していかなければなりません。



## 「みんなで守る郷土の自然」新規選定地域 ～澄水川ホタル生息地～



選定地域の看板

選定されました。たくさんの水生生物が生息している澄水川は、初夏にはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルが飛び交います。

澄水川では、地元小学生と保護者、地域住民の方々が協力して、ホタルの生息調査と増殖活動、澄水川水系の調査観察、河川の清掃・草刈りを行っています。また、そのほか澄水川周辺では天体観測やハイキング、手作り遊び道具教室など、子ども達を中心に地域一体となった取り組みも行われています。

毎年、6月にはたくさんのホタル達が澄水川を幻想的に乱舞する光景が見られます。是非一度、出掛けてみてはいかがでしょうか。

身近な生活環境の中に点在している動植物の生息地などの貴重な自然や、地域住民のシンボルとして親しまれている自然環境を「みんなで守る郷土の自然」として選定しています。

地域住民の自然保護意識がますます高まり、継続的に保全活動が行われることを目指しています。

平成20年度には、松江市島根町加賀の「澄水川ホタル生息地」が新たに



澄水川



選定地域の場所 →

## 乙立ふるさと勉強会(出雲市)

県立自然公園として、四季折々、各地からの観光客が訪れて賑わう立久恵峡。  
平成21年11月28日(土)に立久恵峡の自然や立久恵薬師などの歴史やいわれを理



講師の話に耳を傾ける参加者

解するために、40名の参加をえて勉強会を開催しました。当日はあいにくの雨のため、立久恵峡の散策は出来ませんでした。乙立コミュニティセンターを会場に、ふるさと案内人の今岡盛義さんを講師にお迎えしビデオを見ながら詳しくお話をさせていただきました。



悪天候のため屋内での勉強会となりました。

この勉強会をとおして、普段何気なく見ている立久恵峡の四季それぞれの風景や、神戸川の木材運搬の様子、高瀬舟の様子、オッチカカンギクやおオメノマンネングサなどの立久恵峡にしか生息しない植物、奇勝とされる岩山、乙立の地名の由来など、貴重な財産であることを再認識させられると共に、後世へ語り継ぐことの必要性を考えさせられる勉強会となりました。

## ウスイロヒョウモンモドキ観察登山会(大田市)

ウスイロヒョウモンモドキは、日本では近畿・中国地方のみに生息する草原性のチョウで、島根県では三瓶山が唯一の生息地です。絶滅の危機に瀕し



ウスイロヒョウモンモドキ

しており、平成21年3月に大田市自然環境保全条例の指定希少動植物に指定されました。

7月5日(日)に観察登山会を開催し、43人が参加しました。「大田の自然を守る会」の伊藤宏会長から、チョウの特徴や、保護活動



女三瓶でチョウがあらわれるのを待つ

について簡単な説明を受け、生息地の女三瓶山頂へ向かいました。

そして、島根大学生物資源科学部の星川和夫教授と一緒にチョウが現れるのを待ちました。星川教授から「生息地が徐々に少なくなってきた。生態についてわからないことも多いが、保護活動(食草の植栽、草刈り)の成果が確実に出てきている」と説明がありました。

保護活動の必要性を改めて認識させられた観察会となりました。

### キレンゲショウマの 保全活動



キレンゲショウマ

宮尾登美子さんの小説「天涯の花」の中で、主人公がその美しさにすっかり魅せられ、我を忘れてその場に立ちつくしたという「キレンゲショウマ」。

この「キレンゲショウマ」は、山林内の湿り気のある箇所群生して生育する植物で、茎の高さは1mほどになります。7月下旬から8月上旬に黄色の花を一斉に咲かせ、その様は実にみごとです。しかし、その美しさ故に園芸目的で採取されたり、また森林

開発時に伐採されたりして徐々にその数を減らし、絶滅が懸念されています。

島根県益田市にも生育していますが、生育範囲はごく限られており、しまねレッドデータブックでも、絶滅のおそれが最も高い「絶滅危惧Ⅰ類」に選定しています。

これまで採取防止の看板を設置するなど熱心にこの植物の保全に携わってこられた「登山と写真を楽しむ会」



## オオサンショウウオが棲む八代川(奥出雲町)



オオサンショウウオの観察会の他、八代川の生物調査、水質調査も行いました

奥出雲町の豊かな自然の中で植物や生き物に触れ、慈しむことを学び、ひいては故郷の自然を愛し守る心を育ててもらいたいとの思いから、布勢公民館では奥出雲多根自然博物館の協力で毎年地区内での山登りや川遊び、天体観望会を開いています。

今年度は更に地域の有志の方に支えられ八代川に棲むオオサンショウウオの観察を行いました。観察会に先立ち、特別天然記念物のオオサンショウウオの希少価値などを学びました。

オオサンショウウオは夜行性なので、観察会は夜に実施しました。懐中電灯で照らしながら夜の川の中をジャブジャブ歩くことは初めての体験であり、オオサンショウウオを見つけたときの子どもたちの興奮は最高潮。自分たちの手で三匹のオスを捕獲し、計測の後にもとの場所へ、そっと返すことができました。

自分の故郷の川には特別天然記念物がいることを誇りに思い、環境整備と自然保護の両立という相反する課題について、真剣に取り組む大人に成長して欲しいと願います。

※オオサンショウウオは特別天然記念物に指定されているため、捕獲するためには県文化財課の許可が必要です。



捕獲したオオサンショウウオを計測中  
思ったよりおとなしい。

## 初夏の安蔵寺山を楽しんで～ブナ林自然観察会～(津和野町)

この観察会は、県内でも数少ないブナの原生林が残っている安蔵寺山(1263m)で開催され、講師の方々から詳しい説明を聞くことができると好評です。今年度は6月7日(日)に42名の参加者が集まり、植物観察班、野鳥観察班、山頂登山班にそれぞれ分かれ、自然観察を行いました。

植物観察班では、ブナ林の豊かな自然の中をゆっくりと歩きながら、目に留まった植物について丁寧な説明を受けて、植物を知ることの楽しさを感じ取ることができました。

野鳥観察班は、野鳥のさえずりを聞くための集音機を使い、ホトギスやカッコウ、シジウカラ、ウグイスなど10数種類の鳴き声を聞くことができました。

山頂登山班は、大規模林道の安蔵寺トンネルから登り、山頂から西尾根縦走コースを歩いて小石谷口に下山しました。曇り気味の天候も山頂に近づくにつれ徐々に晴れ間が広がり、初夏のやわらかい日差しがブナの幹と葉のコントラストを鮮やかに映し出していました。



ブナ林の中で自然観察



の妹尾さんらとともに、平成21年9月、生育環境を保全するための活動を行いました。群生地に覆い被さるように張り出した樹木の枝が、日照を遮っていたので、日照を確保するために3mまで伸びる特殊なノコギリを使ってこれらの枝打ちを行いました。

これらの活動によって、今後たくさんさんのキレンゲショウマが群生し、開花する様子が見続けられることを期待しています。



枝打ち作業



写真提供:登山と写真を楽しむ会

## 自然保護関係表彰受賞者の紹介

長年自然保護の普及啓発等に貢献され、その功績により平成21年度中に表彰を受けられた方々は次のとおりです。皆様のこれまでのご功績に敬意を表するとともに、今後のますますのご活躍を期待いたします。

島根県各種功労者(島根県知事) 奥出雲町 小 早 川 正 彰 さ ん  
吾妻山、船通山を中心に30年以上自然公園指導員として活動されています。

出 雲 市 島根自然保護協会(杵村喜則会長)  
平成21年9月に設立20周年を迎えた全県的な自然保護活動団体です。

「みどりの日」自然環境功労者(環境大臣) 出 雲 市 川跡ビオトープ友の会(外山明代表)  
水辺のビオトープを通じて実践的な環境教育に取り組まれています。

自然公園関係功労者(環境大臣) 奥出雲町 岩 佐 捷 治 さ ん  
船通山、吾妻山を中心に長年自然公園指導員として活動され、  
自然公園ふれあい全国大会(京都府)で表彰を受けられました。

自然公園指導員(環境省自然環境局長) 松江市 福 田 悟 さ ん  
三瓶山や吾妻山等を中心に長年自然公園指導員として活動されています。

自然歩道関係功労者(環境省自然環境局長) 斐川町 小 松 原 茂 さ ん  
中国自然歩道「湯の川峯寺コース」の維持管理に尽力されています。

環境保全功労者知事感謝状 松江市 岩 田 栄 僧 さ ん  
宍道湖北山県立自然公園「朝日山登山道」の維持管理に尽力されています。

川 本 町 川本町自然大好きネットワーク(堀川俊雄代表)  
イズモコバイモの自生地保護活動を積極的に展開されています。

## 自然への感性に魅せられて 自然公園指導員 福田 悟

私の三瓶山は新年の北の原から始まり、秋の紅葉登山で終わる。今年も昨年もいずれも視覚障害者の方々のサポートで始まり、終わった。

秋の登山は、出雲市在住の原さん(72歳:全盲)と一緒にだった。私のザックに付けた紐と白杖を頼りに段差のある登山道を難なく登下山する。原さんは60歳で完全失明したが、記憶に残る紅葉の景色を思い出しながら楽しむという。今は頂上での頬を渡る風が最高という。一方、冬の方はここ10年、山口と大分の視覚障害者の方たちと雪の自然歩道を歩いている。彼らは年に1度冬の三瓶を訪れ、その年の冬の自然を確かめる。三瓶の魅力は「静寂」「冬の風の感触」「雪を踏みしめるときの音」という。先導する私のスキーの滑る音を頼りにして来る鋭敏な聴覚の持ち主。それゆえの自然の楽しみ方なのだと思う。

自然とは何かを考えさせてくれるひと時でもある。



紅葉登山(原さん:72歳全盲)



視覚障害者の方々と歩く冬の三瓶



## サヒメル春の企画展「世界のチョウ～大空を舞う妖精たち」

島根県立三瓶自然館サヒメルの春の企画展は、チョウをテーマとした企画展、「世界のチョウ」を開催し、約800種、約4,000点の大空を舞う華麗な妖精たちを一堂に展示します。その色彩や形は、1種ごとにこうも違うものと目を見張るほど、多様性に満ちています。たとえば、たくさんの鳥々がひしめき合う東南アジアに生息しているチョウは、その鳥ごとに異なる固有種が生息していると言われています。

折しも、生物多様性条約第10回締約国会議が、10月に日本で開催されます。生物の多様性を守るには、まず、その生物を知ることが大切。形や色合い、その生態など、多種多様なチョウの世界を垣間見ること、緑の星地球に息づく生き物たちの多様性を体感してみませんか。

●期間／平成22年3月20日(土)～5月31日(月)



色とりどりのチョウ

## サヒメルに「木質ペレット焚空調システム」を導入

～ 冷暖房に伴うCO2排出量を82%削減 ～

### 1. 木質バイオマス空調設備への更新

島根県立三瓶自然館サヒメルでは、本館の空調設備を灯油ボイラー利用機器からCO2排出量を大幅に削減することができる木質バイオマス利用機器へ更新し、平成21年7月から木質ペレット焚空調システムによる冷暖房を行っています。

これにより、サヒメル本館の冷暖房にともなうCO2排出量を82% (62tCO<sub>2</sub> → 11tCO<sub>2</sub>/年) 削減することが可能になりました。(この量を一般家庭で削減するには、約60世帯が冷暖房を1年間使わない取り組みが必要です。)

島根県では、地球温暖化防止と地域資源を活用する取り組みとして、木質バイオマスエネルギーの導入促進に取り組んでおり、県立施設への導入事例としては第1号となります。

\* 導入には林野庁補助事業(森林・林業・木材産業づくり交付金)を活用しました。

### 2. 国内クレジット制度に基づく排出削減事業への取り組み

この設備更新によって削減されたCO2排出量については、国内クレジット制度に基づく「排出削減事業」の承認を受け、丸紅株式会社を相手方として「国内クレジットの取得及び譲渡に関する契約」を締結しクレジット取引を行うこととしました。

【排出削減事業の概要】

- 1) 排出削減事業者及び共同実施者  
削減事業者(譲渡人): 島根県  
共同実施者(譲受人): 丸紅株式会社
- 2) 排出削減事業を実施する事業所  
島根県立三瓶自然館「サヒメル」
- 3) 排出削減量の計画  
計画期間/平成21年度～平成24年度  
削減計画量 204 tCO<sub>2</sub>(4年間合計)
- 4) 事業承認日/平成22年1月18日



木質ペレット焚ボイラー

三瓶自然館サヒメルは「島根の豊かな自然環境」を県民に紹介すると共に、自然と親しむ場と自然環境に対する学習機会を提供することを目的として設置された自然系博物館です。このことから、地球温暖化防止対策への普及啓発と新エネルギーの導入促進に役立てるため、この取り組みを活用したPRを行っています。

## 中国自然歩道の路線見直し

中国自然歩道は、自然の中を歩くことにより地域の豊かな自然や歴史、文化に親んでもらい、あわせて自然保護に対する意識も高めてもらうという趣旨で、環境省が路線決定し、県や市町村が整備・管理する歩道です。

供用開始は昭和58年度であり、通行止め区間の発生等により路線の見直しが求められるようになっていました。県では市町村の協力も得て、平成19年度から路線見直し作業に取り組み、平成21年10月に環境省が路線変更の決定をしました。この変更により鳥根県内の延長距離は約650kmとなりました。歴史・文化的施設を積極的に路線に取り入れたり、周遊区間を設けるなど、より魅力ある歩きやすい歩道となりました。

今後は、見直し区間を中心に指導標の設置や、新たなコースマップの作成に取り組みます。



コースマップは、コースごとに順次作成します。



設置した指導標

## 自然公園の施設整備

平成19年に隠岐を襲った集中豪雨により、大山隠岐国立公園内にある耳浦野営場（隠岐郡西ノ島町）が被災し、利用できない状態となっていました。平成21年に鳥根県が新たにトイレを設置し、快適に利用できるようになりました。



新たに設置した耳浦野営場トイレ



安蔵寺山頂に設置した案内板

安蔵寺山は、西中国山地国定公園内に位置し、独立峰としては県内最高峰の山です。この山頂に、鳥根県が地元の方やボランティアの協力も得ながら、案内板を設置しました。案内板には山頂から見える代表的な山や山頂に行くルートを紹介しています。

海や山に出かけて自然を満喫して見ませんか。

## ボランティア整備事業

### 荒神谷・加茂岩倉モデルコースが一層歩きやすくなりました

荒神谷史跡公園と加茂岩倉遺跡を結び、出雲観音霊場札所でもある蓮台寺、光明寺を經由するルートは、古代出雲の香り、歴史・文化的魅力だけでなく、自然美にもあふれており、この度中国自然歩道に組み込まれました。

多くの人々がウォーキングを楽しんでいる歩道は、地元の方々の努力により管理されていますが、一部に施設の老朽化が進んでいる箇所がありました。そこで平成21年10月に「荒神谷・加茂岩倉モデルコースを整備する会」が開催され、地元を中心に県内から参加いただいた30名ものボランティアの方による、木製階段・木道の設置、木橋の架け替え、標識の取替えが行われました。

半日ほどの作業で、歩道は見違える姿になり、みんなで力をあわせることの偉大さを感じさせられました。数週間後に開催された「荒神谷ウォーク」は、好評だったに違いありません。



木道の設置



標識の取替え